

## 「台獣物語」企画案

### [世界観]

時は 2035 年、15 年前（2020 年）に出現した謎の巨大怪獣「台獣（たいじゅう）」の存在によって、世界——取り分け日本の様相は一変していた。

台獣は、毎年夏頃南シナ海で発生すると、そのまま北上して日本列島を縦断し、日本海に抜けたところで自然消滅する。毎年約 20 頭ほど、主に夏に集中して発生する。その在り方が「台風」とそっくりなことから、「台獣」と呼ばれるようになった。

台獣は、その道中、全ての人工物、化学製品、文明によって作られたものを破壊する。そのため、初めは凄まじいほどの大量破壊が巻き起こった。台獣の通り道にあった建物や街などは、全て破壊し尽くされた。死傷者も数多く出た。生き残った人々は、他の地域への移住を余儀なくされた。九州と四国の一部、中国地方を北上する台獣の獣道は「獣道」と呼ばれ、人が住めなくなった。

人間は初め、台獣に抵抗を試みた。しかし、その戦いが 3 年に及んでも、ついにその進撃を止めることはできなかった（そこでも数多くの死傷者が出た）。

そのため、今では台獣が現れても放置している。ただ、台獣は獣道以外の場所を通らず、人工物以外は破壊しないので、それ以上被害が拡大することもなかった。

### [シノプシス]

#### 第 1 話

中学 3 年生の大宮エミ子（15）は、獣道の西側にある鳥取県米子市に暮らしていた。ここは、今では台獣の観測スポットとして、半分観光地化、また半分研究都市化していた（海外からも多数の研究者、観光客が訪れてきていた）。

エミ子はそこで、祖母のサト子と叔父の英二とともに暮らしている。両親は、15 年前の台獣が最初に発生した「台獣戦争」の際に亡くなった。英二は、民間の研究施設で働いている。

エミ子はちょっとブスだった。顔がおたふくに似ていて、かつてはそれでいじめられたこともある。そのため、引っ込み思案で無口なところがあった。クラスメイトとはあまり交流せず、いつも図書館にこもり本ばかり読んでいた。演劇が好きだったから、決まって戯曲集を読んでいた。この時は、シェイクスピアの「ヴェニスの商人」を読んでいた。

そんなエミ子のクラスに、夏至の日、転校生の榎圭輔（15）がやってくる。その日、エミ子は近所に住む精神を病んでいる主婦に因縁をつけられ、激しく責め立てられる。そこへ、圭輔が通りかかる。圭輔は、ひょいとエミ子に助け船を出す。それは「ヴェニスの商人」の台詞の一つだった。それで、エミ子は咄嗟にそれに合わせて口からでまかせを言い、窮地を切り抜ける。

## 第2話

日曜日、図書館に行ったエミ子はそこで圭輔に出会う。先日の礼を言うと、圭輔は「思った通り、きみはすぐれた『ヲキ』だ」という。「ヲキ」とは、非現実を現実に変曲できる、不思議な説得力を持つ演じ手のこと（アメノウズメに由来を持つ）。

圭輔は、自分は「アテ」だと説明する。「アテ」とは「ヲキ」をサポートする存在。舞台上言えば役者と演出家のような関係。圭輔は、エミ子に「一緒に『夢魔（ムマ）』を退治しないか」と持ちかける。

「夢魔」とは、「マナ」が暗黒化した存在のこと。台獣の出現以来、この夢魔に囚われている人が増えているのだという。これを退治するには、「マナ」を正しく行使しなければならない。そして、その存在こそが「ヲキ」なのだ、圭輔は説明する。

しかし、にわかには理解できないエミ子。そもそも「マナ」とは何なのか、分からない。すると、圭輔はそれを「心の内側にあるもの」と説明する。試しに、目を閉じて、心の階段を降りていくのだと勧められる。

その通りにするエミ子。するとそこで、幼い頃、いじめられて帰った際、祖母に心配をかけまいとして、かえって明るく振る舞った時の記憶が蘇る。そこでの祖母の笑顔が心に突き刺さり、思わず涙を流すエミ子。それで、圭輔の言わんとするところが、何となく理解できた。

## 第3話

エミ子と圭輔は、早速「夢魔」を退治しようと街へ出る。

向かった先はゲームセンター。そこで、「自分は世界から阻害されている」という夢魔に取り憑かれたニートの男と出会い、これを「ドン・キホーテ」の要領で、彼の世界に乗っかったうえで彼を打ち負かすことにより、解放する。男は正気に戻って働き始める。

## 第4話

自殺未遂を試みた小学生の女の子の夢魔を解放してやるエミ子と圭輔。その過程で、彼女の学校そのものが夢魔に取り憑かれていると知り、その学校に乗り込む。

## 第5話

学校では、教師が独裁的な恐怖政治を敷いていて、クラス全体が夢魔に取り憑かれていた。それを取り除こうとするも、失敗。逆に取り憑かれそうになったところで、見知らぬ女子高生の2人組に助けられる。彼女たちもまた、ヲキとアテだった。2人によって、ヲキを育成している機関があることを知る2人。

## 第6話

ヲキの育成機関に、夏休みを利用して体験入学する2人（夏合宿）。2人はそこで、さらな

る「マナ」の使い方を学び、その習得に励む。

#### 第7話

修行の過程を描く。一段成長する2人。

#### 第8話

秋、再び栄町に戻って夢魔を取り除いて2人の元に、急な知らせが。政府が再び、台獣との争いを再開しようというのだ。そのパイロットとして、秘かに育成されていたのが、エミ子の叔父の英二だった。英二は、母に一言「敵を討つ」と言い残して、討伐に向かったのだという。

#### 第9話

英二を追って、獣道に入るエミ子と圭輔。2人は、英二もまた夢魔に取り憑かれていたことに気づく。英二は、自分の兄、つまりエミ子の父、洋一の恨みを晴らす目的なのだ。

#### 第10話

獣道を旅する2人は、やがて道に迷うが、見知らぬ少女に助けられる。その少女は、獣道に暮らす村人だった。獣道には、人工物に頼らず、原始時代の暮らしを取り戻している人々の集落があった（アーミッシュのような存在）。彼らの村は台獣には襲われないため、そこで生きていけるのだ。その村で、台獣に襲われないように特殊な服に着替える2人。村長から台獣の特徴や道順などを聞き、さらなる追跡を続ける。

#### 第11話

辿り着いたポイントで、すでに獣道と英二の争いは始まっていた。英二は、文明の英知を結集して作られた人型戦闘機シビライザーの乗組員となって、台獣と闘っていた。そこで、一旦は撃退に成功したかに見えるが、台獣はさらなる進化を遂げ、再び立ちあがる。そこでエミ子は、叔父を説得するために、白い紙を取り出すと、父からの架空の手紙を読み上げる。そうして、英二に復讐を断念させることに成功するのだった。

#### 第12話

冬、再び村を訪れるエミ子と圭輔。今は獣道に取り残された、マナの聖地へと訪れる。そこで、さらなるマナの真実を知った2人は、台獣はさらなる厄災の予兆の過ぎなかったことを知るのだが……！

[登場人物]

大宮エミ子：ヲキ

榊圭輔：エミ子のクラスメイト、転校生、アテ

大宮英二：エミ子の叔父（洋一の弟）

大宮サト子：エミ子の祖母

大宮洋一：エミ子の父、故人